別紙４

１　これまでの野鳥公園検討の経緯について

野鳥公園の位置

野鳥公園予定地

和白干潟から野鳥公園予定地を臨む

検討の経緯

1989

平成元年7月

港湾計画改訂

●緑地計画の中で親水緑地として位置づけ
●レクリエーションの場として市民が水に親しむことのできる緑地の整備を図る

1993

平成5年4月

アイランドシティ基本計画

● 緑地計画の中で親水緑地として位置づけ
● 立地特性を生かし、野鳥観察などを通して市民が気軽に身近な自然とふれあうことができる空間を創出

平成5年4月

アイランドシティ整備事業環境影響評価書

● 和白干潟及びその前面海域と一体となった鳥類の生息環境を保全し、新たな快適環境を創出していくために、和白干潟に面した親水緑地を湿地、磯浜、池、海浜植物等を備えた「野鳥公園（仮称）」として整備する。

検討の経緯

1994

平成6年5月

アイランドシティ整備事業　公有水面埋立免許取得

1997

平成9年5月

エコパークゾーン整備基本計画

エコパークゾーンとは

エコパークゾーンは，博多湾東部のアイランドシティ周辺の海や海岸を含むエリアで面積約550ha

4つのゾーン

エコパークゾーンを地域ごとの特色を活かすため，4つのゾーンに分類

海の中道（うみのなかみち）ゾーン
砂浜に親しむゾーン

香住ヶ丘（かすみがおか）ゾーン
水辺と緑に親しむゾーン

和白干潟（わじろひがた）ゾーン
干潟を中心とした豊かないのちを育むゾーン

御島（みしま）ゾーン
歴史的要素を活かした憩いのゾーン

検討の経緯

平成18年5月

2006

福岡市野鳥公園基本構想

● 学識経験者や地域住民、公募市民など20名で構成される委員会から野鳥公園の基本的なあり方について市長へ提言

【提言の主な内容】

「エコパークゾーンとの一体的な整備」が不可欠

野鳥公園整備に必要な3つの視点

その① 生物の生息空間の創出

その② 自然環境を身近に感じられる空間の創出

その③ エコパークゾーンの中核機能の創出

【その他の視点】

① 初期段階では基本的な整備のみ行い，その結果を見ながら必要な整備を追加していくなど柔軟な対応が必要

② 自然環境が安定し生物が定着するまでに一定の時間が必要となるので，長期的な視野に立って取り組むとともに，実現可能なものから段階的に整備していくことが重要

野鳥公園基本構想

2006

野鳥公園に加え，エコパークゾーンの整備についても提言を受ける

提言を推進していく体制

■ 自然再生に向けた新たな施策の提言などを行う「推進委員会」の設置

■ エコパークゾーンで活動している団体が相互に意見や情報交換等を行う「市民協議会」の設置

エコパークゾーン環境保全創造委員会
メンバー　学識経験者、市民　10名
設　　置　平成18年11月

和白干潟保全のつどい（市民協議会）
メンバー　市民団体など
設　　置　平成18年4月

現在活動中

平成22年3月

2010

エコパークゾーン環境保全創造計画

エコパークゾーン環境保全創造計画

2010

提言を受けた施策（3つの主要施策）

■和白海域環境改善対策 【和白干潟ゾーン】

水質・底質の改善施策等

■鳥類保全対策 【和白干潟ゾーン】

野鳥公園整備に向けた鳥類の保全対策を講じる

■ソフト施策 【エコパークゾーン全体】

エコパークゾーンの環境を将来にわたって保全し，活かしていく

【具体的な施策例】

和白干潟ゾーン

●覆砂，浅場造成等の整備

●鳥類休息場機能の整備（フロート，人工磯等）

エコパークゾーン全体

●市民共働事業の実施
（和白干潟保全のつどい※等） ※現在活動中

これまでエコパークゾーンで実施した施策

■整備関連

- 多自然護岸の整備
- 緩傾斜護岸の整備
- 外周緑地の整備
- 潮だまりの整備
- 下水道の整備
- 鳥類休息場の整備
  （フロート，石組み）
- あいたか橋
- 養浜

■自然環境保全・再生

- アマモ場造成
- アオサの回収
- 覆砂，作澪
- 海浜植物再生

■その他

- 下水道の整備・高度処理
- 下水道処理水の
  放流口変更

検討の経緯

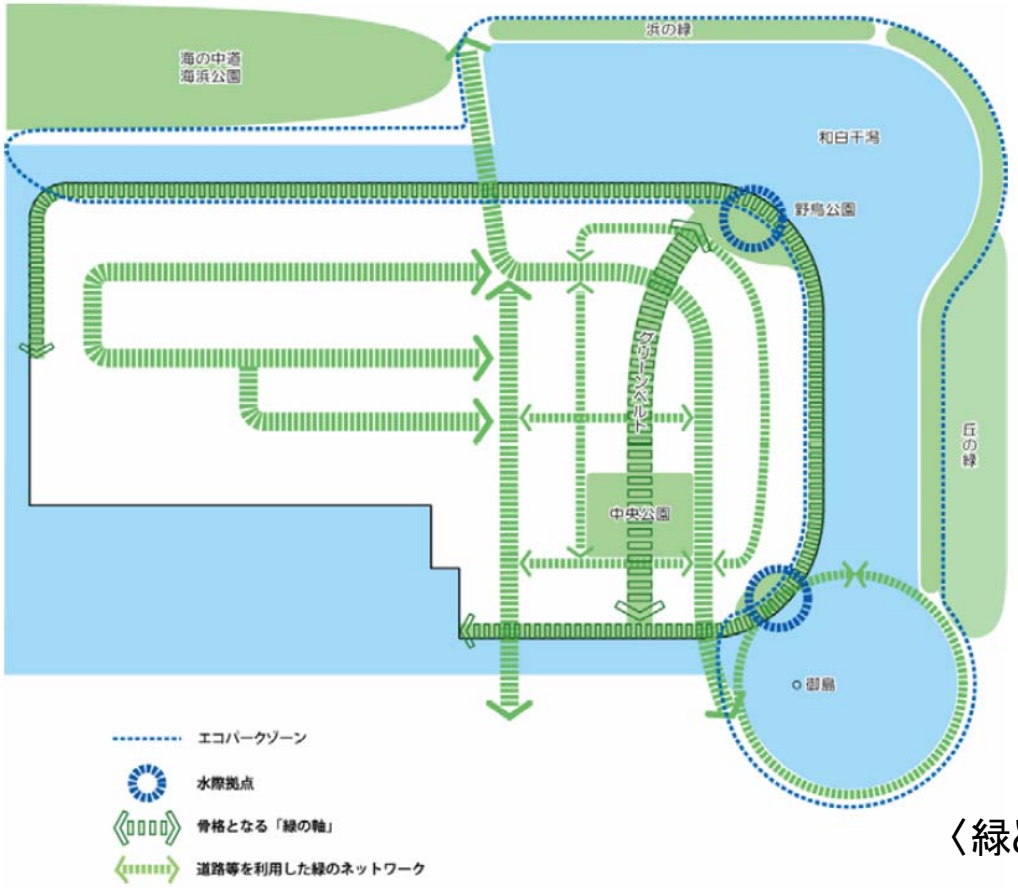
2009

平成21年12月

アイランドシティ事業計画

■環境創造の取り組み

立地特性を活かし，環境共生空間の創出を図るため，「エコパークゾーン」と一体となった親水性の高い水辺空間の創出や野鳥公園の整備等に取り組む。
また，緑あふれるまちの創造と「緑の軸（グリーンベルト）」の創出に取り組む。



〈緑と水辺の環境整備のイメージ〉

アイランドシティ事業計画

2009

■まちづくりエリア

まちづくりエリアの目標像やまちづくりの基本方針等に沿って，質の高い都市空間づくりを行うとともに，福岡市の特性を生かした新しい産業集積拠点の形成を図るなど魅力ある都市づくりを進めていく。

●まちづくりエリアの目標像

①環境共生を実感できるまち

②多様な都市機能と良質な住環境が共存する交流のまち

③多彩な人々が学び，新たな産業を創出するまち

□まちづくりの基本方針

①環境共生のまちづくり

②健康のまちづくり

③みんなで関わるまちづくり

〈土地利用イメージ〉

検討の経緯

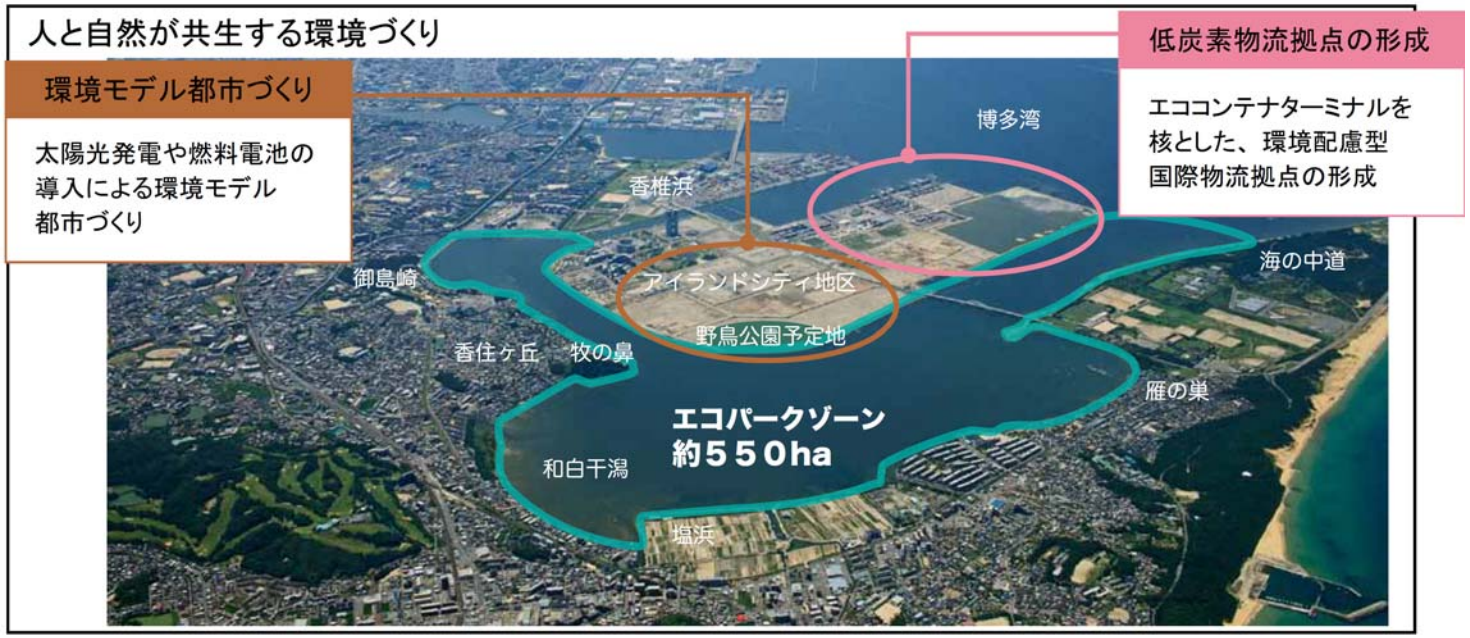
2012

平成24年８月

博多港長期構想

● 博多湾長期構想は，「博多港長期構想検討委員会」が，博多港の20～30年後の将来を展望する長期的な指針として，多くの方々から意見を聞きながら，将来像やその実現に向けた取組みをまとめたもの。

エコパークゾーン全域を人と自然が共生する大規模な野鳥公園ととらえ，国内外に発信できるような新しい環境モデルを構築していく



平成24年8月　博多港長期構想より抜粋

検討の経緯

2012

平成24年11月

野鳥公園ラウンジカフェ

野鳥公園ラウンジカフェとは

住民や学生など市民をはじめ，専門家，事業者，NPO，行政など多様な主体が野鳥公園の活用や運営に向けて語り合う場。

ラウンジカフェの開催状況（平成24年度）

第1回　野鳥公園って何だろう（平成24年11月開催）
- 野鳥観察会
- 野鳥公園のイメージの意見交換

第2回　○○ができる野鳥公園を考えよう（平成25年1月開催）
- ロールプレイ形式による話し合い

第3回　○○ができる野鳥公園を実現しよう（平成25年3月開催）
- 代表者会議方式による話し合い

野鳥観察会

ラウンジカフェの様子

検討の経緯

2013

ラウンジカフェの開催状況（平成25年度）

第4回　野鳥公園で誰と何をしたいか（平成25年5月開催）

・野鳥公園予定地視察

・プラン案の提示

第5回　理想的な野鳥公園を考えよう（平成25年6月開催）

・ブロックを使った理想の野鳥公園の三次元化

第6回　野鳥公園の様々な場面を描こう（平成25年9月開催）

・これまでのアイデアからの全体コンセプト案の提示

ブロックによる理想の野鳥公園の三次元化

野鳥公園予定地の現地視察

【キーワード】　第6回ラウンジカフェより

様々なアクティビティ
時間とともに変化していく空間
驚きや感動
自然環境の素晴らしさ
生物多様性の大切さ
竣工しても完成ではない
エコパークゾーン全体で考える
市民との共働
パークマネジメントシステムの構築
人が野鳥公園によって育てられる
人が野鳥公園を育てる
新たな価値
利用者と公園との新しい関わり
まちとしての成長
アイランドシティ全体の魅力の向上

今後のラウンジカフェの開催予定

第7回 平成25年11月開催予定

第8回 平成25年12月開催予定

ラウンジカフェ意見のとりまとめ

第２回　整備検討委員会